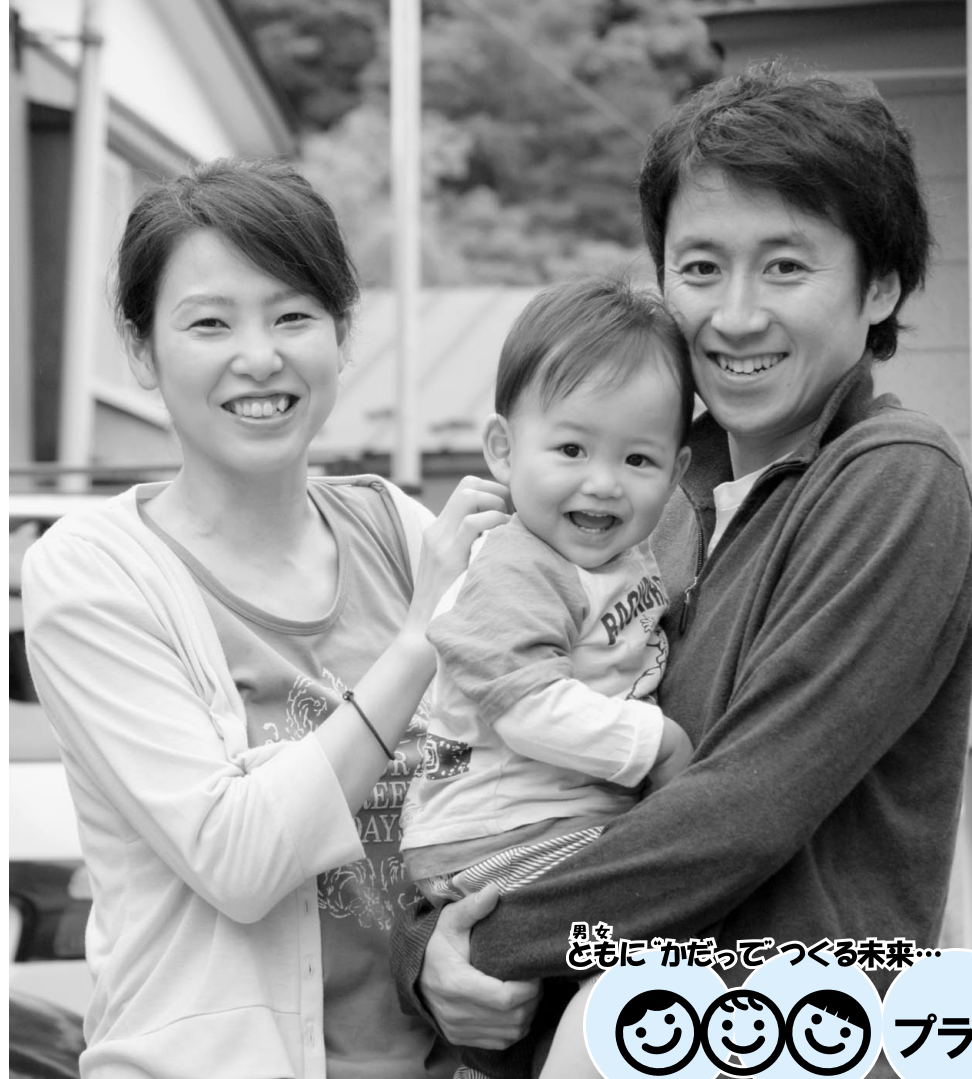


# 個性や自分らしさを大切に お互いを尊重し認め合おう



男女  
ともに「かだっで」つくる未来…  
にこにこ プラン



3月策定された「葛巻町総合計画」など4計画書

本年三月、町は四つのプランを策定しました。まちづくりの指針となる「葛巻町総合計画」と、この計画を実現するための「葛巻町地域福祉計画」、「健康くずまき21プラン」、「男女共同参画プラン」で、いずれも町が目指す「地域の資源を宝に変えて幸せを実現できる高原文化の町」を実現するための基本計画です。本号では男女共同参画プラン「くとも」に「かだっで」つくる未来にこにこプラン」の主なものを紹介します。

## Interview (男女共同参画プラン策定に関わった人に聞く)



山岸真奈美さん  
酪農家

一番の印象は、男女共同参画に対する町民意識が低かったことです。計画策定に当たった町の町民アンケートで、今の生活に不満もなく、男女共同参画が推進されなくてもかまわない、そういう意見が多かったように思います。

私も、計画の策定に携わる前は、「女性の社会進出をサポートするのが男女共同参画」と思っていました。しかし、会議に参加するにつれ、考え方が一変したのです。男女共同参画は、男性だから、女性だからということなしに一人の人として助け合い、支え合うことで、社会への参加や家庭生活の向上につながるものだと思います。

お互いの存在を大切にし、尊重したいものです。

## プラン基本理念

**個性や自分らしさを大切に  
またお互い尊重し認め合い  
男は  
ともにかだっで より良いまちをつくらう**

男性だから、女性だからという意識ではなく、自分の良さを最大限に生かして、またそのことをお互いに理解し認め合うことを第一歩に、ともに「かだっで」より良いまちづくりを目指します

\*「かだる」…「語る」のなまり  
また方言で「参加（参画する）」の意味

## プラン行動目標

- 1 男女共同参画を知ろう、広めよう**  
まずは「男女共同参画」を知ることから。全世帯にプランを配布して周知し、各種セミナーなどの開催や積極的参加を促します。
- 2【家庭】ともに「ありがとう」を言おう**  
一番身近な存在である家族。その家庭らしさで仕事と両立し、家事・育児・介護などをみんなでやり、理解し合い、喜びも苦労も分かち合います。
- 3【職場】ともに働きやすい環境にしよう**  
男女共同参画社会を実現するために一番大きな課題が労働環境。「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を充実させ、より良い労働環境を実現します。
- 4【地域】ともに参画して実践しよう**  
色々な役割が求められる地域活動。住民として積極的に参画し、住んで良かったと思える地域づくりをします。
- 5【教育】ともに学び未来を育もう**  
学校に限らず、たくさんある学びの場。自分らしさ、自主性、人権を尊重し、子どもも大人も学習し実践します。

## 男女共同参画って？

皆さんは「男女共同参画社会」と聞いて、どんなイメージの、どんな社会だと思えますか？

男女共同参画社会基本法によると、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。

これは「男性であること、女性であることにかかわらず、『人』として、対等に暮らし

ていける社会」のことです。そのためには、①男女が互いに認め合い、責任を分かち合い、協力し合う気持ちで育てていくこと、②「男性だから」、「女性だから」といった性の違いによってしぼられないこと、③「自分らしさ」を見つと、④「自分」を育てながら他と違う生き方をしていてる人を認めること、がとても大切です。

また、「参加」ではなく「参画」という言葉には、単に「仲間に加わる」だけでなく、物事の決定に至るまでの相談や議論の場に加わり、男性も女性も主体的かつ平等に意思決定のできる社会をつくり出そう、という思いが込められています。

## 町内企業の取り組み

### タカナシ乳業(株) 岩手工場



社内に「次世代育成支援対策委員会」を設け、現場の生の声を反映させています。「短時間勤務制度」を子どもが小学校に入学するまで延長したり、育児休業で失効した有給休暇を活用できるようにして、男女を問わず育児に参加できる制度を作りました。

社員の家族にも、会社を知ってもらう機会やイベントを継続し、アットホームな社風を継承します。

### 介護老人保健施設 アットホームくずまき



介護の現場は、変則的な時間勤務や夜間の勤務など、出産や育児を抱えた女性にとっては働きやすい環境とは言えない現状です。

そのため、基準よりも多い職員を配置し、出産・育児休暇を取りやすいよう配慮しています。これまでに育児休業を取得し、職場復帰したのは1人、現在、育児のため2人が休んでいます。また、育児中の女性職員には、本人と面談のうえで夜間勤務のない日中だけの勤務にするなど配慮しています。